



鳥取西高校 図書館ジャーナル

鳥取西高等学校図書館

NO.3
2020.7

いよいよ夏休みが始まりますね。

今年は少し短くてあわただしいですが、夏休みはシリーズものや名作など、普段読めない本を手に入るチャンス。ぜひこの機会に心に残る一冊に出会ってください。

図書館は夏休み中も開館しています。

部活などの合間に来てみてください。

夏休みの開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
						8/1 —
2 —	3 0	4 0	5 0	6 0	7 0	8 —
9 —	10 ×	11 ×	12 ×	13 ×	14 ×	15 —
16 —	17 0	18 0				

開館時間 8:30~16:00

※変更がある場合は、図書館前に掲示します。

開催中！

自然科学部合同展示会

7/13 (月)
~8/3 (月)

図書館談話スペース（カウンター前）で自然科学部の合同展示会を開催中です。

物理班・生物班・地学班・情報班・数学班総勢56名の日頃の活動内容や取り組みを展示しています。

製作したオブジェやロボット、採集した実物など、展示物もいろいろ。期間中にぜひご覧ください！

地学班

たとえばこんな展示が！

情報班

生物班

物理班

カウンター前のコーナーで
科学の本も展示中！



英語 中田典子先生 より

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイディみかこ // 著 (新潮社、2019 年)



題名をはじめて見た時から気になっていた本ですが、マスコミなどでも話題になり、読んでみました。人種、宗教、移民、格差、LGBT……多様なイギリスの社会がそのまま反映されたイギリスの中学で、強くしなやかに生きている筆者の「息子」のことはや行動が面白い。ボランティアが日常にある大人の社会や、シチズンシップ教育を行う公立中学校の様子も面白い。さ〜っと読めて、でも読んだ後にいろいろなことを考える一冊でした。



『安楽死を遂げるまで』宮下洋一 // 著 (小学館、2017 年)

これは西高図書館で出会った本です。大学入試の小論文にもよく使われる「安楽死」「尊厳死」ですが、ずっと考えているけれど自分の考えがまとまらない、私にとって喉に骨が刺さったような痛みがあるテーマだったので、読んでみました。

筆者は、ヨーロッパやアメリカで安楽死に立ち会い、本人や家族、安楽死を行う医療者などへの取材を重ね、最後は日本で取材を終えます。筆者自身も取材のたびに心が揺さぶられ、違和感や迷いを感じながら、彼なりの結論に達しています。彼が話を聞いた人の中には鳥取大学医学部の准教授（生命倫理学専門）の名前も出てきます。

将来、医療系に進みたいと思っている人、文化学・社会学に興味がある人にお勧めです。

新着図書ピックアップ



『一人称単数』村上春樹/著(文芸春秋)

村上春樹6年ぶりの短編集。
軽やかな文章で日常と非日常の
はざまを楽しめます。



『鴻上尚史のほがらか人生相談』
鴻上尚史/著(朝日新聞出版)

WEB 連載から選りすぐった 28 の人生
相談。ユーモアと温かさに溢れるアド
バイスが、悩むココロを楽にしてくれます。

『コロナの時代の僕ら』
パオロ・ジョルダーノ/著(早川書房)



私たちはこのパンデミックをどう過ごし、
何を考えなければならないか。感染爆発の
起きたイタリアでつづられたエッセイ。

『無限の中心で』まはら三桃/著(講談社)



文系女子の主人公が、数学研究部
と関わることに。数学が苦手な人
に読んでほしい青春ストーリー。

そのほかにも、新しい本がたくさん入っています！新着図書の一覧は、校内からは蔵書検索のページから
見られます。校外からは鳥取西高公式ホームページの図書館のページからご覧ください。

URL=https://cmsweb2.torikyo.ed.jp/toriw-h/index.php?page_id=43

